

2004年訪問活動概略

※2004年中途からは、訪問活動の記録をまとめたものを従来通りの形で公表しなくなったため、参考として、毎回の訪問活動の案内に掲載している、前の回の訪問活動の内容の概略を集めました。

1月10日

(訪問と「住民とボランティアによる討論会」の2チームに分かれて行動)

・70代女性。兵庫区で全焼。区画整理で土地を売ったがローンの残債あり。夫を亡くしたのちここへ移って5年になる。ここは見学者の多い住宅だが、子どもや若者の声が聞こえない、不自然な、普通でない生活、老人ホーム一步手前である、とみんなでお話を伺う。

1月24日

・60代男性。ここは平均年齢75才、年寄りや病人が多く、これから大変なことになる。設備は完備しているが、アフターケアを考えていない。痴呆の発生があり物音がして夜も眠れない。

・70代女性。ここには近所付き合いの感覚はない。一日誰ともしゃべらないこともある。じつとしていたら自分がダメになってしまう。ここでは笑いが無い、と深刻なお話を伺う。

・60代女性。5分ぐらいで火が回ってきて焼けた。破れたた壁穴を突破して裸足パジャマで脱出した。近所では5~6人死んだらしい。詳しく聞こうとして怒られたことがあり、未だに事実関係ははっきり知らない。生きているから口出しできない。「イラクの人には悪いけど、ここにも援助したい人がいっぱいいる」と語られる。

・70代男性。兵庫で全壊、半焼。消火栓が2ヶ所とも水が出なかったが、ドブの水をすくって延焼を防いだ。焼けた者の気持ちとして、これは人災である。生き埋めや生きながら焼かれた方もいる。立ち話で出来る話ではない、と約1時間のお話を伺う。

2月14日

・70代女性。震災直後にダンプに轢かれ身体不自由。ここは買い物が不便。唯一の店はお酒やお菓子ばかりでおかしくない。暴走族やホームレスに困っている。バスの本数が減りタクシー代が嵩んで困る、と必死の苦言の数々をお伺いする。

・40代男性、元留学生。安いマンションで留学生らが多く亡くなった。震災で日本人の人間性の良さを見た。それがもっと日本全体に広がっても良いのじゃあないか。外国の常識では考えられないという日本人のモラルと、これからのお年寄りの大変さを具体的に長時間お伺いし、力と感動を得た貴重なお話し伺い。

・60代男性。インターホンで、「話すことは何もない」と何度も繰り返されたが、上げていただいて「震災を経験しているから震災ぐらいではビックリしない」という沢山のご苦労と沢山のご経験のお話を伺う。帰り際に、今日はメンバーの顔を見て会って見ようかなと思ってドアを開けた。話しが出来て良かった。若い人達に会えて良かった、と言って下さる。

2月28日

・60代女性。市場を作らなければ住宅ではない。住んでみないとわからなかった住宅の欠陥を「施設見学」。建物はコレクティブだが人は入れっぱなし。54人中4年で8名亡くなったと、高齢化の実態を縷々お話し伺う。

・70代男性。これまでは恵まれたケースで問題なくやってきたが、平均年齢は確実に上がり今後自分達だけでやって行けるのか不安がある。とお世話役からのご心配を伺う。

・60代女性。表札に男性名をかかげ用心。訪問するとのチラシを大事に保管し歓待して下さった。奇跡的に助かった命と震災後のノイローゼから仮設住宅の喜び、復興住宅の難しさなど、こんこんと湧く泉のように話しがつきず、訪問の若者が深い感銘を受けた2時間。

・70代男性。「下のベンチで座っている人に声かけてやってくれ。通り掛かりの人に「元気か」って声かけてくれ。ゴツツ違うで。高齢化社会は声かけが大事。みんな絶対さびしい思してるで。日本人は怒りを忘れてる」との政治談義のあとの言葉が心に染みだ。

3月13日

(site: www.weekend-kobe.jp からデータ消失)

3月27日

・60代女性。震災で2件のお店がつぶれ借金に追われている。肺がん検診も長いこと受けていない。余計な病気が見つかる困る。今度病気になったら医者には行かないつもり。この住宅では主人が帰るまで一言もしゃべらない。「こうして自分のことをふり返って話したのは初めて」と2時間を越すお話し伺いは、数奇な人の出会いの物語でした。

・70代女性。近所の数名の女性が集まって持ち寄りお茶会の最中。先日意識を無くして部屋で倒れていた時、24時間水道を使わなかったため警報が鳴り「緊急事態発生」「緊急事態発生」と百回ほど音を出し、隣のご主人が「緊急解除キースイッチ」で入ってきて助けられた。緊急警報スイッチを備えてくれないだろうかと真剣なご要求であった。

・80代女性。健康でどこも悪くない。「おはよう」と声を掛け合う。地震はどうしようもない。寝たらドーン。一瞬の間もない。いざとなると何も出来ない。何がどこにあるかわからならない。タナモドサツと落ち、懐中電燈置いてもダメ。戸も開かず生きた心地しない。足元がガラスとガラクタでいっぱい。助けられ、アタマ真っ白のまま手ぶらで家を出て、帰ったらドロボーでタンスの中空っぽ。と被災時の混乱をリアルに多々お伺いできた。

4月10日

・60代女性。ここにきて賑やかなお葬式をしてくれる宗教に入った。車を見送る人が数人というのはさびしい。でも宗教は気が狂ったみたいになる。と気さくなお話しを伺う。

・70代女性。ここは狭いが三宮に近くて便利。だがいろんな人がいる。昔の隣保のようなお互いに助け合った付き合いとは違う。我が良ければそれで良い、という付き合いだ。

・50代女性。年齢のせいで避難所を出るのも仮設を出るのも遅かった。子どもが転居先の学校になじめずに困った。ようやくおちついて高校を出ると今度は就職難でなかなか仕事が見つからない。この社会はいろんな壁がものすごく大きいです。切々とお話しを伺う。

・90代女性。インターホン越しに「90ナンボになっていますわ。ここは変なセールスとか来る

ので息子から、やたらドアを開けるな、と言われてねえ。すいませんねえ。週3回のデイサービスに通っています」とお元気そうな、声だけのお話し伺い。

4月24日

・70代女性。生活保護が今年になって1万円も減らされた。来年も減らされると聞いた。神戸市に理由を聞いたが「国が決めたことですから」と。小泉さんは年寄りをいじめている。生活保護で何もせたくしている訳ではない。と、必死の訴えであった。

・70代女性。全壊した家からボランティアの人から荷物を全部持っていかれた。それ以来ボランティアと名乗る人は絶対に信用しません、と強い口調で・・・。

・70代後半女性。震災以来糖尿を患い、肺がんと言われて2年経っている。いつ死んでも良いと思う。神戸には身内は誰もいないし、と。

5月8日

(site: www.weekend-kobe.jp からデータ消失)

5月22日

・60代女性。3時間生き埋めで、「大丈夫です元気です」って言ってもヘリの音で聞こえない。「不足は言いたくない、生きているし」震災は今思うたら夢の中、と言われながら9年前のことがまだ尾を引いていることを切々と感じさせられた約1時間のお話し伺い。

・60代女性。4年間の県外避難から帰って、県外の人情の熱さを改めて感じた。ここは年配者が閉じこもりがちになる。ボランティアが訪ねて行ってやって欲しい、と心遣いの訪問。

・50代女性。着の身着のまま避難した地震の話になると涙ぐまれ、本当につらい体験だったのだなど痛感させられた。地震後遺症への癒しのコツを聞く、約1時間のお話し伺い。

・60代男性。リストラ、病気、職無し、ホームレスから復興住宅で病気療養までを、ボランティアのみなさんありがとう、と感激のお話し伺い。

6月12日

・50代男性、一人暮らし。二日間近くの公園で、何も食わず、寝ることも出来なかった。まあ、言うたらきりが無いけど、言いたいことはいっぱいある、と2時間半のお話しのあとにつぶやかれる。これからは気になる訪問であった。

・70代男性。ボランティアはもう要らん、と言いながら神戸市行政について詳しい知識の披瀝。神戸市のメンバーを変えて欲しい、と熱心な社会性のあるお話しを伺う。

・70代女性。「目が悪いでよその家と区別がつかんから」、と通路側の窓に大きな印をつけてご自分の家を確認に思わずスケッチ。遠いところを訪ねてくれてアリガトウ、に心温まる。

・70代女性、一人暮らし。今日はボランティアが来るというのでずっと待っていた。「若い人と会えてうれしい。本当に待っていて良かった」と何度も言われた、優しい方へ若いボランティアのお話し伺い。

6月26日

・70代女性、一人暮らし。生き埋めになって10時間後に助けられた。「主人を助けて」と言ったが「もう声のせん人は後回しだから」と自分だけ足から吊り上げられた。「地震や、がんばりやー」と言ったら「オー」と答えた最後の声は忘れられない。「一年ぐらいは地震の話しもしたくないし、テレビの映像もいやだった」。

・70代女性、一人暮らし。隣から火が出た。逃げようとした時はもう火がついていた。心筋梗塞で寝ていた母を残して「ごめんな」と言って逃げたが、火事さえなければ。何十年も2人で住んでいたそれが、何秒も経たないうちに一人になってしまった。何ヶ月も泣けなかった。涙が出なかった。それをまた人にしゃべることも出来ない。一見元気そうに見えるのにととても孤独。一声でも、ドアの外からでも、かけてくれる声があればそれだけでもうれしい、とおっしゃっていた。

・60代女性、一人暮らし。朝一の電車で大阪へついた途端に地震。入院している娘が心配で神戸へ向けて歩いた。足がパンパンになったがしんどいと思わなかった。「どちらまで？」とみんな助けてくれたあの時の様子は目に焼き付いている。

7月10日

・60代女性。「どうぞどうぞ」と片付いた涼しい奥の部屋で90分のお話し。被災と共に被爆の話しを伺い驚く。昨年死別された夫と、残されたワンちゃん、多彩で筋の通った人生観に感銘の1日であった。

・50代女性。相談が出来る若い年齢の人がいない。前に住んでいたところのように「醤油貸して」といったコミュニケーションがここにはない。落ちこんでいる時、必要な時に来てくれるボランティアが欲しい。

・60代男性。病気で失業中。初めは無口だったが、話し進むにつれご自分で思い出話を80分。ものすごく、話したかったみたい、と参加者からのあたたかい感想も。

7月24日

・70代男性、一人暮らし。灘区で被災。北区の仮設からここへ。仮設はカゴの鳥のようだったが1階だけだったからふれあいが多かった。自分は透析、母は老人ホームの生活。引越しが無料だったのは助かった。行政やボランティアに感謝している。

・70代女性、一人暮らし。短歌で被災体験をお伺いした。

8月14日

・60代女性、一人暮らし。開口一番「ここは、いや！ノイローゼになりそう。」気性の荒い住民とのご感想や、強制的な寄付や募金お悩みなど。昨年より持病の腰痛をこじらせた、悲惨な一人暮らしのご様子を聞く。でも、ここに住まなくちゃね・・・と約1時間のお話し伺い。

・60代男性。ボランティアには悪いことするヤツラが居る。口で言うことは100%ウソで、金儲けが目的や。気をつけや！ と、ドア半開きで、かなり警戒のご様子。

・70代ご夫妻。仕事に就くためにトラックの中で生活をしていたため、仮設住宅に入居できて、お風呂も自由に入り、食事も自由に、お茶を入れご飯を炊いて食べた時は、心の底からホッとした幸福感を味わいました。今でもあの時のことを忘れません。

8月28日

・50代後半女性、一人暮らし。中央区でマンション全壊。入院中の為人体被害はなかったが病院は怪我人が押しかけムチャクチャだった。震災後6年で病気や交通事故に遭い、仮設住まいの両親をガンで失ったのが大きかった。今もボランティアをしている。震災10年「人間の心」を忘れてはならない。「心の栄養」も大切な課題、と2時間近いお話しを伺う。

・50代男性、一人住まい。中央区でアパートが全壊、1階にいた人が亡くなった。西区の仮設に居たがこちらに帰って来たかった。3回目にここが当たり、近くに兄弟や友達が居る。酒は飲まない、飲んでいる人は生活が乱れて大変。隣の棟で死んでからだいぶ経って発見された人が居る。孤独死は多いらしい。

・50代男性、一人暮らし。「僕達のために、本当にありがとうございます。新しく見つけた職場で、年金を払い終えるまで頑張るよう、今はそれだけです。」と自筆の支援シート。

・70代女性、一人暮らし。長田で被災。家の2階が1階になっていた。火事が発生し家の前まで燃えた。区役所の川の西、全てやられた。昨年まで民間住宅におり、去年はじめてここに来た。毎日病院へ通い、毎日買い物に出る。近所の方々とは親しく、留守の水遣りも頼まれている。神戸に来て30年、やはり長田に帰りたい、とお話しを伺う。

9月11日

・20代女性、親子3人暮らし。中央区で被災、全壊。「いろんな所からの救援、うれしかった。生まれ育った町がグチャグチャになって悲しかった。」と書かれた支援シート。お伺いしたお話しは、苦難に耐えたご家族の生きる力への感動。気持ちいっぱいにお話しを伺う。

・60代女性、寝たきりのご主人と2人暮らし。職人のため、満額掛けた年金も生活保護の半額。介護する自分も同じ病気に。自分が先に倒れたらどうするんだろうと不安。楽しみは仮設住宅の時できた友人と月1回会う事。折角会うので明るく楽しみたい。愚痴は言えない。

・90代女性、一人暮らし。関東大震災の時、東京にいたとのこと。被害はすごかった。こうして訪ねてくれて、いちいち聞いてくれるのはうれしい、とおっしゃる。

・60代男性、一人暮らし。震災で両モモの骨をやられて障害者となった。家族の不遇と住居の不満を述べる、ここにも深刻な震災後遺症。

9月25日

・60代、ご夫妻。中央区で被災。あの日、「あっ」と思ってズボンをはこうとしたが、なかなかはけなかった。まるで酒に酔った時のようだった。当時50代でマンションを借りて頑張ってきたご夫妻の感動物語。明るく前向きな話しの中に「震災のことは思い出さんようにしている」とポツリの一言が心にかかる、1時間半のお話し伺い。

・80代女性、一人暮らし。透析で疲れて横になっておられるところに、近くの棟の仮設時代のお友達が遊びに来られており、訪問者も感激ひとしおの仲の良いお付き合いを見る。

・70代男性、一人暮らし。あの日朝、起きてベッドに座っていたら、海から大きな音がして縦揺れが来た。灘区の浜側は「陸の孤島」となった。震災8年目に部屋で倒れ、2日後に救出された。今、10年の時の深さを物語られる2時間のお話し伺い。

・70代後半ご夫妻。1階に居られた2人の身内を失われる。初日は救援の手が来ず、翌日になって人が来た。交番へ行って警官に「2人ほど下に居るんですが」「応答は?」「ないです」「じ

やあ、行方不明2名と受付けますわ」と。応答がないと助けない。お2人の遺影に手を合わせて2時間のお話しお伺いを終えた。

・80代ご夫妻。16時間の生き埋めで今もしびれる右手。仮設住宅の時代を懐かしがられる。今日来てくれるということでずっと待っていた、と90分のお話しを伺う。

10月9日

(台風のため中止)

10月23日

・80代女性。「本当に今日は長い問話しを聞いてくれて、ありがとう。話して気分が晴れた。こんなに話したのは久しぶりでありがとう。これからも頑張ってください。」と感謝と励ましのお言葉。昭和13年の洪水と20年の戦災と、終戦直前の広島原爆に会った。

・70代ご夫妻。「どうぞ」とお部屋に上げていただき、「私らは商売人やったから、震災で店がつぶれた次の日から1銭もお金が入ってこない。」と厳しい震災後の実情を伺う。

・70代男性。震災のことは思い出したくない。年をとっているしどうしようもない。高齢者はここへ押し込められた形ではないか。新しいところへ入っても難しい、と。

・70代女性、一人暮らし。1階はペチャンコ「助けて～、助けて～」と声がしている。近所の人を助け出し、上へ上へ逃げた。今も朝は4時から起きて午前中は病院。あとは人の世話にフル回転している。震災の時に配られた自転車に今も乗っている、雨の日も。沢山のお話しと元気を頂いた90分の訪問お話し伺い。

11月13日

・60代女性。縦に「ドン」と上がってエアコンが落ちてきたが運良く当たらなかった。屋根の瓦がバラバラと落ちた。避難所にはお年寄りの世話で7月まで居た。仮設でも良い友人に恵まれて良かった。クヨクヨせずにはチャンスがあったらこれに乗ることが大切。困難に会うとチャンスもある。苦労はしないと力が出ない。何を失って何を得るかだ。新潟の人達も大変だと思うけど、いまにきっと良いことがあるよ、と伝えたい。

・60代男性。最初は近所バラバラだったが、みんな慣れてきて結構集まってくる。住民は高齢者が多くチャイムを鳴らしても出てこない。年間4～5人は亡くなる。天下り社会では老人が頑張っているため若者が育ちにくい。神戸空港は何年かしたら結果が出るが、多分ダメだろう。年金はかけとらんかったらもらえんけど、食費を削ってまで払えんやろ。などなどお話しを伺う。

・70代男性。車椅子だがヘルパーさん無しで頑張っている。血圧が心配。1日中薬を飲んでい。「何時倒れるかわからない」との不安と奥さんとの死別のさびしさを訴えておられた。

11月27日

・80代女性。長田の長屋で被災。火が回って長屋の2人が亡くなられた。奥さんと子どもに「おまえ達逃げてくれ」というご主人の声がだんだん小さくなって行ったとの話しをあとから奥さんに聞いた。神戸に地震は来ないと聞いていた。何もわからずほとんど裸で逃げ、何も持ち出せ無かった。今度地震に会ったらしっかり対応したいと言われる。西区の仮設住宅の現場

には今も車で通るが、花いっぱいと思い描いていたが駐車場になっていた。仮設の人とは今も交流がある。

・80代女性。廊下を手すりですり歩中、そのままお話しを伺う。人の世話になるのがつらい。人に迷惑をかけたくない、死にたい、と盛んにもらされる。受けた恩は返したいと新潟と柏崎に寄付をされたとのこと。身体の不自由を訴えられる。突然、こんな詩もあるやろと吟じられた「欲深き、人の心と夜の雪、積もるにつけて道を忘るる」。一刻、暗くなりかけた廊下に明るい光が灯ったように感じた。

12月11日

・50代女性。灘区で全壊。3日間は歩道にゴザを敷いて、壊れた家から木材を持ってきて24時間たき火をし、そこで寝ていた。風呂に入ったのは14日目、梅田に5時間かけて電車で行った。震災ルックだったのでタダで入れてくれた。苦しい思い出が夢みたい。

・70代男性。ここへ来て5年になるけど誰も顔知らん。仮設の時の知り合いも誰もおらん。家族が死んで、親戚が離れて、頼る人がおらん。ボーナスとか働いていた頃が懐かしい。楽しみは火曜日にセンター行ってご飯食べてお風呂に入って、と2時間のお話し伺い。

・70代男性。借金して建てた家が全壊。近くの高校に避難したが3日間飲まず食わずだった。仮設には入れず、大阪でマンションを借りて住んだ。「ボクらの人生、戦争と災害でメチャクチャや。」「間違いなく孤独死、それだけは覚悟している」と2時間のお話しを伺う。

12月25日

・70代男性。年と共に衰えが目立つ、冷たい世間では独り者は衰えも早い。他人は怖いです。ここに来て何度も言い書きしてきたが、結局何も変わらなかった。

・70代男性。灘区で被災、文化住宅2階の自分は助かった下の3人が亡くなった。戦争では軍需工場でもっと怖い目にあった。しかし戦争後の仕事がない食べるものがないにはもっと苦勞した。奥さんは40代で亡くなり自分も震災後に大病をしてやせ細った。隣の奥さんが部屋で倒れて亡くなられたが発見は10日後だった。電気がつきっぱなしでおかしいとなった。自分も朝起きてボタンと倒れたことがある。ボタンは押されへんし、押してもカギをしているので入れへん。昔は助け合いだった、地震がなければと思う。電話番号をお伺いしたが断られた。自転車に防犯のスローガンをはってあり、何かの役に立つだろうとおっしゃる。